

ユニット構築会議／学術実験プラットフォーム検討会議（第18回）議事録(案)

日時：2021年9月1日（水）13:15-14:00

場所：オンライン

書記：伊藤(篤)

議事：

- ・お知らせ
- ・プラットフォームに関する話題提供
- ・学術情報プラットフォーム「核融合クラウド」の十年戦略（第2報）
- ・次回予定（2021年9月8日（水）13:15-15:00）

お知らせ

- ・ユニットテーマのレビューを実施中。27年の提出があり review と revise を実施中
- ・ユニットテーマ提案に限らず、研究テーマ提案を所外から募集中
- ・本日(9月1日)14:00 から常伝導 LHD 研究会を開催
- ・プラットフォームのニーズ調査のアンケートを実施する

プラットフォームに関する話題提供

○学術情報プラットフォーム「核融合クラウド」の十年戦略（第2報）－今後10年の戦略－

大館暁

（芦川）JT-60SA はその他記載された装置とは異なり、欧州と日本との協定に縛られたルールがあり、他の議論でもその制約を受けている。それを踏まえて、現実的に JT-60SA を含めることは可能か？

（回答）核融合クラウドと JT-60SA は無関係なので含める／含めないは言えない。なお、欧州は核融合データのオープン化に積極的なので、SA やその他 BA 関連データもオープン化される可能性はある。

（長壁）今回のプラットフォームでは SA を大きく扱う話なのか。

（大館）ITER はスコープに入れたいという提案であり、SA に関しては現実的な考えが必要だがオープンサイエンスの潮流から色々な可能性があると思う。

（居田）開始にあたっては、合意形成を先にするのではなく、データのオープン化に関して組織毎に判断をすることにして開始してはどうか。NIFS が先行してオープンにすることで、他の機関もオープンにすることを検討するようになるのではないかと。コミュニティーで自発的にオープン化が進むことを期待。

（大館）データの公開時期とは切り離し、フレームワーク・インフラをワンストップサービス(フォーマットの共通化)として展開するために、議論を始めるのは良いのではないかと。

（長壁）データ公開と、ワンストップサービスを切り離して考えた方が良いのではないかと。

（居田）フォーマットの規定の前に、NIFS の規格で先行して公開した方が良いのではないかと。後からコンバータを作るのでも良いのではないかと。

（大館）フォーマットの規定に関して議論することは、必ずしもデータ公開を遅らせる心配はない。LHD のような大規模なデータをコンバートすることは容易ではないので、ある程度の標準フォーマットを考えることは建設的である。